

2016. 11 ウッドイチキンフィリピンボランティア

アエタウエディングレポート

今回のフィリピンボランティアは子供たちたちのカットをしてくる班とアエタのウエディング班に分かれました。

僕ウエディングの班の団長をさせていただきましたのでレポートを書かせていただきます。

4日間のうち始めの1日と最後の4日目は移動で使ってしまいます。実質2日です。

2日目はアエタの村に前回サロンを決めてきたサロンに行って5人の研修生にアップとメイクを教えました。

サロンは前回行った時は、クーラーもなく、窓も小さく中はすごく暑かったのですが、壁をぶち破り、シャンプー台が2台置いてあり、鏡も大きくつけてあり、冷房も効いていて見違えるようでした。伊藤さんに名付け親になってもらうようお願いし、『絆サロン』とつけてもらい、木の看板に書いてもらいました。次回行くときは『絆サロン』と書かれた看板が掲げられていると思います。

今回はメイクによる顔やスタイルのイメージをイラストに描いたものを持ってきたので、その説明から入りました。すごく、真剣にアエタの研修生は聞いておりました。その後、モデルを使って実際にメイクをし、ドレスに着替えた後、アップをしました。7月に行った時から1週間に2回練習をしていたようで、前回よりすごく上達していました。

そして、ストレートの技術を教えようと実験的に僕はアエタのチリチリの子のストレートをやってきました。

結果は失敗しました。ボリュームはダウンしたのですがチリチリが伸びてなかったです。

いろいろな原因を探ってまたチャレンジして行きます。

その後富田江里子さんのところに行って、交通事故による脊髄損傷で寝たきりになった少年のところに行ってきました。

すごくプラス思考の少年で、奇跡を起こし始めていました。医者が諦めていたのに、寝返りがうてるようになっていて、いつかは歩き始めそうです。この家は両親共真面目でよく働いて、家庭の中もすごく明るいらしいです。愛がある家庭です。

彼はバイクのサイドカーみたいなのところに乗っていました。バイクに2人、サイドカーに2人乗っていたそうです。

バイクの2人は軽症で今では何もなかったようにバスケットボールをやって遊んでいます。もう1人のサイドカーに乗っていた子は亡くなりました。

普通の子は「なんで俺だけ寝たきり？」と妬むらしいです。しかし、彼は2人が元気で良かったとおもうらしいです。

きっと近い将来、彼は歩くようになると思います。

その後ゴミ山に行ってお菓子を渡してきました。前々回にここへ行きましたが、全く変わっていませんでした。子供達の顔や手はすすで真っ黒でした。服もボロボロでした。

ダニエラの所にも行ってきました。ダニエラは相変わらず細いです。身長は伸びたような気がしましたが声がかれていて、喘息が出るようです。彼女の家は両親に問題があるようです。この街は治安が悪く夕方暗くなる時に行ったため、富田一也さんはとても警戒していました。やはり危険な街のようです。

3日目はイバット村に行きました。前回と同様水牛に乗っての道のりでした。

25年前のピナトゥポ火山の爆発は相当な火山灰を降らせたようです。3つの村を沈め、溪谷の間を火山灰でうめ、大きな川を作りました。その川を1時間ちょっとかけて渡っていきます。

イバット村は2回目なので僕たちが行くとすでに「ウエルカム」状態でした。手を振り寄ってきて、ハイタッチをしたり握手をしたり、スマホのカメラを向けるとめっちゃくちゃ喜んで笑顔になる！前回来た時は照れて、写真を撮らせてくれなかったのに。

ここではもう一人、イバット村の研修生が参加しました。ウディメンバーと研修生のコンビを昨日とは変えて、あえてはじめから研修生に好きなようにやらせてみました。なんと、カウンセリングから始めていた。キュートがいいか？セクシーがいいか？すごい！メイクもアップも自分の思うようにやっていた。アエタの研修生はすごく生き生きしていました。

昨日も思ったのですが、カメラマンの堀口まもるさんが今回同行してくれたのですが、プロのカメラマンがウディングモデルのアエタに大きなカメラを向けると、モデルはポーズをとり始めました。すごい！カメラの力は！やはりスマホとは違いました。

綺麗な空、緑色の草木をバックに可愛くなったアエタをまもるさんは撮り続けました。

その後、子供達から大人たちまでお菓子を配ったのですが、一つ感動したことがあります。前回、お菓子のゴミを束ながら捨てていたの、日本人の僕たちが拾っていたのを見ていたのか、今回は束終わってもゴミが一つも落ちていませんでした。すご

いですね。やらないからダメではなく押していないからダメだということがよくわかりました。

帰りの車の中で、富田一也さんといろいろなお話をしました。その中で、一つ提案をしました。一也さんは一番初めは現地の道具でいろいろな技術ができるようにというリクエスト出していました。しかし、そうではなく大きな変圧器を置いて、日本の道具が使えるようにして、日本の技術、日本の道具、日本のセンスのサロンにしたかどうかと。そうすれば、そこで髪をやりたいという方が来るのではないかと。その提案には一也さんも「素晴らしい！」と共感していただきました。今では、その「そのサロンは日本です！治外法権です！」と言っています。きっと絆サロンはいろいろな可能性を持ったサロンになっていくと思います。

ウディチキンとしては視察を入れて5回目のフィリピンボランティア。だんだんと見えてきた部分もあります。

ちょっとした良き行いがきっと自分たちに返ってくる、
また、ここで同じ時間をともに過ごした仲間はすぐにソウルメイトとなってしまう。
ボランティアは不思議な力も持っています。

ウディチキンアエタウエディングチーム 安井重満